

「2050年カーボンニュートラル」実現に向けたガス業界の取り組み ～ 第二の革新と飛躍を目指して ～

2021年3月24日
一般社団法人日本ガス協会
会長 広瀬 道明

1. 「2050年カーボンニュートラル」宣言の意義と視点

昨年10月の菅首相の「2050年カーボンニュートラル」宣言は、極めて大きなインパクトがあり、これにより別世界、別次元に入った。

<宣言の意義>

時間軸を明確にしたこと	目指す姿を明確にしたこと
「2050年までの低炭素化社会を経て脱炭素社会を2050年に実現する」というゴールの時期を明確にしたことにより、多くの人が行動を起こし、大きなうねりが生まれつつある。	「脱炭素社会とはカーボンニュートラル（実質ゼロ）」というゴールの姿を明確にしたことにより、選択肢、可能性が大きく広がり、多くの人が勇気づけられ、国民的な運動になりつつある。

<宣言の視点>

- エネルギーは一瞬たりとも途絶えさすことができず、常にリーズナブルな料金でなければならないことから、実際の取り組みは「2050年までいかに繋ぐか」ということになり、その成果として「2050年カーボンニュートラル」が実現される。
- エネルギーは供給の保障とお客さま選択の保証が必須であることから、カーボンニュートラルの実現は、多重性、多様性に富むエネルギーシステムを実現することである。

2. ガス業界の「2050年カーボンニュートラル」実現に向けた取り組み

- 日本ガス協会は、宣言の意義と視点を踏まえ、**2050年にはカーボンニュートラルガス（以下CNG）を100%あるいはこれに限りなく近い水準を目指すことを、菅首相の宣言の翌11月表明した。**
- 都市ガス事業は、来年、事業開始150年（1872年横浜でガス燈点灯）を迎える。最初の100年は石炭・石油由来のガスであったが、**50年前のLNG導入を大きな革新、飛躍に繋げた。**今回のCNGも「**第二の革新と飛躍**」に繋げるべく、**今年の準備期間を経て来年をそのスタートの年とする。**

「時間軸」を踏まえた「多様性」ある取り組み

時間軸

LNG転換も約30年を要したが、これを参考にするに、2050年にCNGを100%近くにするためには、**2040年に50%～30%、2030年に20%～5%**にしておかなければならず、これにチャレンジしていく。

多様性

CNGは、すでにバイオガス、カーボンニュートラルLNG等の実績があるが、今後は**メタネーション、水素、CCUSなど多様な選択肢があり、構えを大きくし、あらゆる可能性にチャレンジしていく。**

現在、ガスの需要家は都市ガス、LPガス、コミュニティーガス合わせて約5,500万件であるが、ガスがどうしても必要な産業や「料理はやっぱりガスだよ」というお客さまが、**これからも安心してガスをお使いいただけるよう、ガス業界が一体となり、CNGに取り組む。**

「繋ぐ」ための重要な使命

一方、2050年まで続く**低炭素社会**では、**CO₂を少しでも減らしておくことが重要であり、今後も省エネの推進、天然ガスの利用促進等「繋ぐ」というミッション**を果たしていく。

3. 「2050年カーボンニュートラル」取り組みの課題と要望

【官民一体となった取り組み】

- リーズナブルな料金を維持しながらCNGを普及拡大するためには、**官民が一体となった取り組みが必要**である。
- ・ブレークスルーを伴う技術開発や国際的なサプライチェーン構築が不可欠だが、特に、**メタネーション**については今後の取り組みにより我が国が世界のトップランナーになることも可能でその**早急な立ち上げ支援**と、日米豪と東南アジアをチェーンとして結びつける**国際的枠組みの構築**も併せてお願いしたい。
- ・強靱かつ効率的な**インフラ整備**が不可欠だが、まず、**既存設備を有効活用する「活材」**という発想が大事で、次に、**新たなガスパイプライン網の拡充**も必要で、特に、レジリエンスという観点からも**日本海側と太平洋側をつなぐ日本横断パイプラインの支援**をお願いしたい。また、インフラ整備のため**償却期間に関する規制改革**も早急をお願いしたい。

【地域レベルでの取り組み】

- **地域レベルでのカーボンニュートラルは地方創生の有力な方策**になるが、地域に根差したガス事業者はその核となるポテンシャルを有している一方、その多くが中小事業者であるという実態を踏まえた、**資金面・人材面の助成制度の創設**をお願いしたい。

【天然ガスの安定供給に向けた取り組み】

- **低炭素社会の中核を担うのが天然ガス**とされているが、その安定供給に資する上流投資や東南アジアも含めた**国際LNGバリューチェーン拡大に向けた資金面、政治面のサポート**と**CO₂削減効果の国際的枠組の構築やルールの整備**もお願いしたい。

4. 「2050年カーボンニュートラル」の留意点

- エネルギー政策は、国民生活や経済活動に直結するだけでなく、**外交・安全保障とも密接に関係しており、「したたかさ（戦略性）」と「しなやかさ（柔軟性）」が必要。**
- エネルギー政策における**金融の役割、影響が増大**してきており、**時間軸と多様性という視点からの整合**が必要。
- **国際的なカーボンリサイクリングが重要**となり、その**メカニズム、ルールへの積極的な関与**が必要。
- **炭素税等カーボンプライシング**については、その**影響等、十分な検証・検討**が必要。